

オオスズメバチ

越冬からさめた女王バチは、1匹から巣作り、産卵、育児を始めます。働きバチが多くなると巣も大きくなり、秋の終わり頃には、最大の大きさになります。冬までには、オスバチ、女王バチ共に巣から出て、働きバチも年内には死んでしまいます。残った巣も自然界では、春までに朽ちてなくなってしまいます。

オオスズメバチは、世界のスズメバチの中で最も大きく、性格の凶暴性、毒の強さで知られています。巣の近くや占有している果樹や樹液のある場所に近づくと、大きな顎（あご）を「カチカチ」と鳴らして威嚇（いかく）します。夜はハチが飛んでないと思われがちですが、本種は少しの明かりでも飛ぶため、夜間のクワガタ採集の際は注意が必要です。

富士市での現状

鷹岡、須津等で確認されましたが、自然環境が減少している事、昆虫類の食物連鎖の頂点という事もあり、個体数は少ないです。



オオスズメバチを確認したメッシュ

